

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370700472		
法人名	コンフォト有限公司		
事業所名	グループホーム楽々園		
所在地	岡山県井原市大江町4505番地5		
自己評価作成日	平成27年 11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成27年 12月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は、市中心から南西部にあり、目の前には田んぼが広がり、のどかで静かな場所にあります。2ユニットあり、12名の利用者さんの個々のリズムを尊重して支援するように心掛けています。日常生活において、自宅で生活しているように、出来る事はして頂きながら、出来ないところは一緒にしながら、寄り添って生活が出来るように支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価期間記入)】**

井原市街から少し離れた閑静な田園地帯ののどかな環境に位置し、日々の散歩等に快適な条件にある。玄関には理念を掲げ周知徹底している。一つの玄関から左右に分かれた2ユニットである。ユニットごとに目標を設定しその人らしい生活ができるように理念に基づき安心して生活できるようにケアを行っている。平日は食事を外注し個々の生活リズムや利用者との関わる時間を大切に家族や利用者の願いに応えている。経営者は時間を惜しまずケアを行っており、職員との明るい雰囲気作りは、利用者の表情も明るい。関連職種等との連携を進め信頼関係の構築により、なお一層安定した継続支援が期待できます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、日常生活の支援を受けながら、安心した生活が出来るように職員は、理念に基づいて介護している	2ユニットそれぞれ、目標を設定しその人らしい生活ができるように理念に基づき安心して生活できるようにケアを行っている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の環境整備の道づくり、秋祭り等地域行事に参加し、地域の人と交流ができています	定期的に行われている溝掃除、お祭り等の地域の行事に参加し地域との交流を図るようにしている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、地域の祭りなどで、顔馴染みになり、理解をしていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表の方、民生委員、地域のかた等に参加して頂き、実情を報告し貴重な意見を聞かせて頂いて、参考にしている	家族の意見や運営推進会議の意見を聞くことで今まで気づかなかったことへのサービス改善に役立てることができそうですが、平成27年度運営推進会議が開催されておらず、家族や行政、地域の意見がサービスに反映されていない	運営推進会議を定期的開催し、利用者やサービスの実際、評価等の意見を聞き、サービス向上に活かすことを期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	井原市介護事業者連絡会議に参加し、協力関係を築けるようにしている。相談がある時は、担当の介護保健課の方に相談に行っている	法的な最新情報や、ケア方法について分からない事は相談に行き連携を図っている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で勉強会をして、「絶対にしてはいけない」ことを徹底している	マニュアルを作成し、定期的な勉強会で周知徹底している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんな事が、虐待になるのか、勉強会をして周知させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見任制度を利用されている方もおられますが、はっきりと理解している職員は少ないので、全体会議で勉強会をします		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時に、本人、家族に十分な説明をおこない確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、地域の祭りなどで、顔馴染みになり、理解をいただいている。家族が来所されたときに、要望を聞いたりしている。また、意見箱を設置して、ご意見を伺うようにしている	家族が来所された時は、積極的に本人の情報を与えコミュニケーションをとるようにしている。また地域の人との交流を大切に、顔馴染みの関係を作り話をするようにしている。意見箱を設置して、意見を出しやすい環境に努めている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を開催し、職員の意見、思いを話し合い、反映するようにしている	毎月定期的に勉強会や会議を開催し、職員の意見を出しやすいようにしている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る事は整備するように努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議で、個々のケアについての話し合いをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡会に参加し、他のサービス事業者と連携をとり、情報収集している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に何度か面談し、本人の望み、思い、どのような生活がしたいのかを把握し、馴染みの関係になるようにする		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんにも、何度か面談し、要望を聞きながら、不安を解消して、安心して頂けるようにする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様に面談し、必要なサービスを計画し、説明、確認をする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として、協力しながら、出来る事を増やして、安心できる生活が送れるように支援します		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と信頼関係を築きながら、一緒に共有して本人を支えていかれるようにこころがけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方、友達などの面会時は、ゆっくり話が出来るようにしている	面会に来てくれた人がゆっくり話ができるような支援を行っている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きなフロア内で、利用者さん同士や職員と、交流ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからも相談に来られれば、出来るだけ支援するようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の話の中で、本人の意向や思いを汲み取り、望みに出来るだけ答えるようにしている	本人の話を聞いて、可能なことはかなえるようにしている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人に何度か面談し、生活歴や、趣味、何かしたいことなど、本人をよりよく知るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々接する中で、有する力を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とケアカンファレンスをし、本人の望む生活が出来るように介護計画を作成している	日々のケアや支援の方法について職員等で支援会議を行い困難ケースに対応している。連絡ノートを作成し周知徹底している	今後も職員みんなで連携を図りながらその人らしい生活ができるような支援を期待します
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護記録を記帳している。また、申し送りノートに、特記事項を記入し、職員全員が把握できる様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせて、介護計画を作成し、計画に沿った支援をしている。ニーズが変われば、計画変更をして、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや、神社のまつり、散歩時にお話をして、顔を覚えて頂くようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院のDrに毎月往診に来てもらっている。定期的に検査したり、年1回健康診断を受けたりして、健康維持に努めている	毎月定期的に往診を行い、健康管理に配慮している。インフルエンザ等の予防にも積極的に行い体調管理に気を付けている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師さんは、入居者の方をよく知ってもらっているので、アドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、いつも病院内に出入りして、状態を看護師さんから聞いて情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方は、家族や病院と連携をとりながら、支援している	現在の所、看取りについては、施設では行っていないが、入院のタイミングを病院や家族と図りながら支援している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療マニュアルを見ながら、緊急対応の勉強をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練をしている	11月15日避難訓練を行ったが、消防署や地域の人等と一緒に至っていない	定期的に避難訓練を行っていますが、緊急時は消防署と地域の方の協力が不可欠です。今後も連携を重視した避難訓練を行うことで緊急時に対応できる組織作りを期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ、態度など、失礼のないように接するようにしている	本人の希望する名前を呼ぶようにしている。 常に側に寄り添い、本人の思いをかなえられるようにしている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いなどを聞いて、自己決定が出来るように促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の人が、自分の思う生活ができるように、見守りながら、ゆったりと生活できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んで着れる人は、自由に着られるが、自分で選ぶ事が出来ない人は、職員が選び着せている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事づくりはしていませんが、モヤシの根つき、お盆拭き、テーブル拭きなど、手伝ってもらっています。時には、食べたい物を聞いて作ったり、おやつを作ったりします	食事の準備や片づけ、おやつ作りなど本人のできる部分を一緒に行い楽しみや生きがいを持ってもらっている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個々に把握しており十分な水分が取れるようにしています。、燕下が困難な方には、ミキサー食のトロミをつける等個々にあわせてます		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをしたり、出来ない人は、職員が洗っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあわせて、トイレ介助、オムツ対応をしている	日中はできるだけトイレでの排泄ができるようにケアを行い、夜は安眠を重視したケアを行っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックをしており、便秘の人には、水分を多めに飲んでもらったり、主治医指示の下剤を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとり個浴で対応し、声かけで、拒否された方には、無理はしないで、後から声をかけるようにしている	本人の気持ちを配慮し、入浴したくないときは、少し時間をずらし声かけをするなど本人の思いを尊重し、プライバシーに配慮した声かけや対応に心がけている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度調整をその方に合わせてしており、個室で安心して休む事が出来るようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の処方した薬を職員が管理して、その都度、手渡しで本人に飲んでもらい確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何か役に立つ事があれば、させて下さいと言われる方には、家事の手伝いをしてもらっている。新聞を読まれる方、パズルをされる方、個々に楽しまれている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見、祭り、イベント、紅葉、かかし等お出かけしている。家族の方と外食に出かける人もいる	年間計画を立て、参加できる人へは春はお花見、秋は祭りや紅葉がり、地域のイベントのかかし祭り、かぐらなどに家族の協力を得て出かける楽しみを持てるように支援している	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ってもらうことはしていない。以前、お金を貸してトラブルになった事があったので、お金は、施設で預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける人はいない 手紙は職員が預かって出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きなフロア内で、飾り付けに季節感を出し、室温を入居者さんに合わせている	一つの玄関から2つのユニットとなっている。お互いのユニットを自由に移動できたり、レクリエーションなど一緒に楽しむことができる。明るいフロアは、みんなが集う場所として活用されている。壁などに季節感を感じることができ解放感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなフロア内で、利用者さん同士や職員と、交流ができています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みの物を持ってきて頂くようにして安心した生活が出来るようにしている	本人の希望する物を部屋に置くことで馴染みの関係ができるように配慮している。家族の写真や持参した花なども飾ることができている。好きな編み物をするなど自由な時間を過ごすことができている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には、手摺があり、安全に歩行が出来るようにしている。トイレ場所も表示を大きくして、解りやすくしている		